366日の昔話
にち　むかしばなし
ふく　むすめ　どう　わ　しゅう
福娘童話集

メスウシと ライオン

福娘童話集　せかいの世界昔話より

メスウシと ライオン（ロゴ）

おなまえ

福娘童話集　安本シリーズ 18

1

おがこおたこの はなしです。

いっぴきの メスウシが 川に 水を のむに いったとき、ついでに 川の ほとりの 青い草を いっぱい たべました。

せて ガネこのことすると、ふうんなことに、はらぺこの ライオンに あってしまいました。

「おい、メスウシ、がくこいの。おまえを たべてしまうぞー」

ライオンは、すぐに とびかかろうとな いきおいです。

メスウシは、あとずさりしましたが、でも、気を とりなおして かんがえました。

どうせ、いつかは しぬのです。それなら、わたしを ほしがっているライオンに わたしの からだを やって しぬのが、いっぱな ことに かたもしれない

メスウシは、ライオンに いいました。

「どうぞ、わたしを たべてください。でも、ひとつ おねがいが あるのです」

「なんだ？」

「おなかを すかせている 子ウシが、わたしの かえりを まっています。どうか わたしに、おっぱいを やりに いかせてください。すぐに もどってきますから」

「ためだ、かえってこないに きまっている」

「かえってきます。やくそくは まもります。いま 子ウシに のませなければ、わたしの おっぱいは、だだに なってしまいます。なにかの やくに たつということは、どれも だいじなことでしょう？」

「…ふむ。じゃあ、いってよい。それは ごほと まっている」

ライオンは、こぶしぶながらも しょうちしました。

メスウシは、いそいで かえると、子ウシを よびました。

2

「さあ、おいで ぼうや。わたしの おっぱいを たべるんと ものの」

とメスが、いつになく 子ウシは、おかあさんの ようすが いつもと ちがうことに 気づきました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？」はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、ぼくも おかあさんと いっしょに いく。おかあさんが 一人で ライオンの ところへ いくと おもったら、ぼく がなくて、おっぱいを のめないよ」

メスウシは、子ウシを だきしめました。

「おかあさん、いきました。

子ウシは、いいました。

「このよの なかで なにかの やくに たつのは、いっぴきだけ いっぱいになって、こぼれるほど ぼくを たべれば、ライオンも おなかが いっぱいになるよ。ぼくは ほかの どうぶつを たべたりしないから」

3

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

4

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

5

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

6

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

「ね、わかったでしょ。いい子だから、はやくのんでね。おかあさんは、ライオンと やくそくしたのだもの」

すると 子ウシは、なき出しそうなかおで おかあさんを 見あげました。

「おかあさん、なにか こんぱいと ありましたでしょう？ はなしてください。はなしてくれなければ、ぼくが おっぱいを のませないよ」

子ウシが あまえて こんけんなので、メスウシは とうとうに ほんとのことを はなしました。

福娘の携帯向けサイト

・福娘童話集
（世界むかし話）
・366日への旅
（誕生日・歴史・誕生日）
・ことわざ辞典相談所
（ことわざ検索・質問など）
・世界60秒めぐり
（世界の国々の紹介）

QRコード

http://fukumusume.com